

しゃくなげ

学校の教育目標 志をもち 仲間とともに創り出す生徒



自身の強みをみつめる ～3年生面接練習より～ 校長 福井敏彦

3年生の受験が始まりました。面接のある進路先を受験する生徒は、朝、休み時間、放課後に時間をつくり、面接練習を行っていました。「面接練習をしてください」と私に声をかけてくれた子とは一緒に「自身の強みをみつめる」時間をもつことができました。

中学校生活の豊かな体験の値うちを確かめる

「中学校生活でがんばったことは何ですか？」どの学校でも聞かれる質問です。どの子も行事、学習、生徒会活動、部活動など、自身が「これは頑張れた」と思うことを堂々と語ります。

その中で特に印象に残ったのは「ブルペンキャッチャーとして活躍したAさん」です。試合で活躍できた体験を語るのではなく、チームの一員として役割を果たしたことを語る姿に共感しました。

体験の値うちを決めるのは自分自身です。他人と比べるのではなく、自身の役割に自信と誇りをもつことを大切にできるAさん。尊い姿だと感心しました。

将来の夢は「名詞」でなく「動詞」で考えよう

「将来の夢は？」と問われたら、職業を思い浮かべる子が多くいました。「まだどの職業につくか決めていませんが・・・」と回答する子には「夢は『名詞』でなく、『動詞』で考えよう」と伝えました。

「スポーツ関連の仕事」を例に考えます。「選手」「トレーナー」「商品開発」「イベントプロデューサー」等多岐に渡ります。そこで「何をしたいのか」に着目します。スポーツの好きなAさんが「仲間の頑張りを支える」「仲間に元気を与える」ことを自身の強みとし、やりがいを感じるならば、そうした職業はたくさんあります。その中にはきっとスポーツ関連の仕事もあることでしょう。

私は教員ですので、夢を名詞で考えたなら夢は叶いました。しかし動詞で考えたなら「どの子も幸せに生きる力をつける」のは道半ば。担任の頃を振り返ると、生徒と一緒に悩みながら学習や生活、行事に取り組む中で自身の強みが生きていたのかなと思います。今は日々「自分にできることは何だろう」と自身の強みを問い、夢の実現に努めているところです。

「心の伴った形」をつくる

受験を終えた子たちが「ありがとうございました」とお礼・報告に来てくれました。普段生徒との関わりが少ない私にとって、人生の節目の一つに関わることができたことに「こちらこそありがとう」という心境です。自分が多少なりとも役にたてたなら、私自身の夢の実現への一歩です。

面接練習は、入室や姿勢など「形」の指導も大切にします。堂々と受け答えをする姿を見ながら「誠実で前向きな面接練習を重ねてきたのだな」と感じます。私へのお礼も「心の伴った形」です。

これから感謝を伝える場が増えます。「3年生を送る会」もその一つ。一人一人が自身の強みを生かしてねらいが達成できる会になることを願っています。